

北極星

岡山県立岡山操山高等学校
第1学年 学年通信
第2号
平成21年5月11日

宿泊研修特集（その1）

4月22日～24日まで、国立吉備青少年自然の家へ宿泊研修に行ってきました。入学後、時間的余裕はあまりありませんでしたが、有意義な研修となるように準備を進めてきました。その過程で、次の3点の「準備の基本方針」を教員団では確認しました。

1 クラスを8名ずつの5班に分け、班分けは出席番号順ではなく、色々な中学校出身者からなるよう考慮して編成する。

8つの役割を設けて、全員がリーダーとして活躍する場面を設定して、3日間のうちに必ず1回はリーダーを経験するようにする。また、事前に係ごとの集会を行い、役割などを理解させ当日しっかりと仕事ができるよう援助する。

校歌の三部合唱やスタンツと共に、集合時間についても得点化し、5分前集合ができたクラスにはその都度ボーナス得点を与え、研修全体で総合優勝を決める。

また、前日の学年集会では、「明日からの3日間は、3年間を凝縮したものになるはずだ。また、そうなるようにしよう。」と呼びかけました。日付を追って活動内容を振り返ってみます。囲みは、生徒の感想です。

【4月22日（水）】

基調講演

東京大学・社会科学研究所の学術支援専門職員 安藤理（あんどうさとる）先生に講演をお願いしました。安藤先生には、昨年まで3年間本校が行ってきた「个性的教育推進事業」において本校の教育活動の成果の分析に関して、指導・助言をいただいております。また、今年度は、本校との共同研究という形で、「学力向上のためのことば教育の評価と実践」と題する研究を行っていらっしゃいます。そのような中で、安藤先生が本校の教育内容に興味を持たれ、本校を理解して下さっているのが、生徒の皆さんに3年間、そしてその先を見通したお話がしていただけのものと思ひ講演をお願いしました。



講演の細かい内容は、当日のパワーポイントの資料(別紙:5月1日配布済)をご覧ください。

- ・今までぼんやりとしか理解していなかった論理の組み立てについて、とてもよく理解できた。
- ・安藤先生の講演は、どこか普通のものではなかった。突然「モリモリ食べる男子は好きか？」などと問うのだ。講演のテーマとは明らかに関係ない話である。しかし、安藤先生はその話を講演に結びつけて論じていたのである。驚いた。とても有意義な時間だった。
- ・主張と根拠、そしてあんどどうメモ。これからの生活に生かしていきたいと思います。
- ・今までは自分の考えや意見を言う時、すんなりと言うことは出来ませんでした。が、(クラス討議の発表の時)東大のあんどどうメモに沿って発表すると普通にすらすらと言うことができました。

クラス討議

基調講演の後には、クラス討議が行われました。クラス討議には、次のような課題が与えられていました。

「我々操山高校1年生は、どんな仲間であってほしいか。また、自分は仲間にとってどんな存在でありたいか。なぜそのように考えるのか。」について話し合い、その内容を学年全体で発表してください。その際、「操山」「仲間」「夢」「(クラス独自のキーワード)」という3つのキーワードとクラス独自のキーワードを必ず入れて発表してください。

クラス討議には、安藤先生も加わっていただきました。私も各クラスの様子を、見て回っていましたが、中にはさっそく「あんどどうメモ」の形式を真似ているクラスもいて、さすがだなと感心させられました。

夕食後の各クラスのクラス討議の発表は、内容も発表方法もクラスの個性あふれる聞きごたえのあるものとなりました。各クラスの発表の要旨は次のようなものでした。『 』内の語句は、クラス独自のキーワードです。

1組 我々は、お互いを理解し『信頼』しあえる「仲間」でありたいと思います。お互いを知り、積極的に関わり合うことで、互いの長所も短所も知ることができます。その上で小さな優しさや思いやりをもって接すれば信頼が生まれてきます。次に、自分が仲間にとってどんな存在でありたいのか、についてです。次の3点を挙げたいと思います。いつも笑顔でいる。気兼ねなく話せる存在でいる。自分の心を開く。これらのことは、信頼があってこそのことだと思います。私たちは、見えるところでも見えないところでも、お互いが支え合える「仲間」になりたいと思います。そんな素晴らしい「仲間」になるという「夢」に向かって、「操山」での高校生活を毎日一歩ずつ進んでいきたいと思っています。



裏へ続く

2組 例えるなら、「操山」というカレーを私たちは作っていくことになるのです。材料は280人の「仲間」であり、スパイスという「夢」を加えることで味が引き締まっていくのではないのでしょうか。さらに、カレーを作るには水も必要です。水の量次第で、そのカレーはドライカレーにもスープカレーにもなるのです。我々がどの様な『水とさじ加減』で料理をするかによって、できるカレーの質が決まるのです。このすばらしい素材の280人の「仲間」が「夢」を持ち、みんなを活かせる『水とさじ加減』で3年間過ごせば、すばらしい「操山」を作れると思うのです。

3組 クラス討議の結果、私たち1年3組は、共に競い合い、高め合って悩みや喜び、そして「夢」を共有できる仲間でありたいと思いました。なぜならば、人間が人間に生まれた限り、人間らしく生きることが人間の義務であり、その「人間らしく生きること」のなかに夢に向かって支えあい、励ましあって前進すること、そして互いに『情』をもって接することが相手を思い、様々な面で協力していくことにつながるからです。私たちにとって仲間が「一緒にいると楽しい」だけの存在だったならば、せっかくの「仲間」の意味がありません。互いを尊重し合い、上へ上へと伸びていけるような仲間となれるよう、「操山」での日々の生活や行事を通して、成長していきたいです。



4組 まず、どのような「仲間」であってほしいかという問いに対して、まじめな時とふざける時のけじめがついている、遠慮せず何でも話せる、相手を良い方向へ導く、お互いに協力できる仲間が良いという意見が出ました。また、どんな仲間であってほしいのかという問いに対し、人の役に立つ、頼られる、高めあえる、陰から支える、一緒にいて楽しい存在でありたいという意見が出ました。さて、これらをふまえて決定した「操山」1年4組のキーワードは『F4』です。F4のFとは、Fever, Forever, Feeling, Follow です。ずっと熱く、共感し、補い合うそんなクラスを作るために、コミュニケーションが必要だと思います。クラス内でのコミュニケーションをより活発にし、共に「夢」を追い、これからの球技大会や、松柏祭などを成功させたいと思います。

5組 5組独自のキーワードは『ベクトル』です。「仲間」とは、友達より大きな関係の中のもので、仲間ではベクトルが合わない時もある。友達は仲間の一部ともいえる存在と考えます。我々は、操山ファミリーの一員としてみんなの「夢」、「操山」というひとつの場所でみんなが叶えようとするものに対し、一致団結してベクトルをそろえ合える仲間であってほしい。また、1人ひとりを持つ個人としてのベクトルは当然1つではない。が、個人の夢に向けられているベクトルを少しだけ、仲間のために仲間の方に向けられる人でありたい。

6組 これから肯定側立論を始めます。プランは 仲間と理解し合う です。各々の持つ色々な価値観を尊重することから始めます。メリットは よりよい自分 です。このメリットの発生過程です。友と競い合い、夢を追いかけることにより、やる気もでるし、達成感も大きくなります。そこで、夢を得る環境が我々には必要となります。だが、我々にはもうその環境があるのです。この「操山」です。「夢」を身近にできる環境があり、「仲間」と一緒に夢を追いかけることができるので、メリットが発生します。このメリットの重要性は、 よりよい人生 です。仲間と競い合うことで高い学力を、仲間と協同作業を行うことでリーダーシップを身に

つけることができ、自分たちに『向上心』が芽生えるのです。みなさんプランを導入しましょう。(注：6組はディベートの立論の形式に倣って発表をしました。)



7組 みなさんは『愛』という言葉聞いて何を思い浮かべるでしょうか。友愛、家族愛、恋愛など様々な形があるでしょう。どのような『愛』を持つべきか、今はわからなくても、いつかは答えを見つけなくてはならない時が来るはず。「操山」で過ごす3年間で操山ファミリーの一員として求められる愛を探していきたいと思います。また、操山ファミリーが探していくべきものは他にもあります。私たちは、どんな「夢」でも追い続けることができる無限の可能性を持っています。その夢がどんなものであるとも、操山ファミリーで支えあっていけば、どんな夢でも追い続けることができるはず。そして、支え合う時に必要なものこそが愛なのです。「夢」と『愛』これこそがこれからの3年間で操山の「仲間」たちを探し続けるべきものだと思います。

最後に安藤先生から講評をいただいた。「仲間というテーマで、どれだけの討議ができるのか少し心配していたが、立派な内容だった。高校1年生がこれだけのことを人前で話せるのは素晴らしい。驚いた。これ程のものが聞けるとは予想していなかった。」とお褒めの言葉をいただいた。そして、「敢えて、課題を提示するとすれば、論点をどう生み出すかというスキルを身につけてほしいということだろう。この要求は研究者に対するものと同じレベルのものではあるが。例えば、全員が仲間が大事だと思っている。ここでの作り得る問いは、『なぜ、仲間とうまくいかないことがあるのか?』であろう。論点の立て方、問いの作り方が重要だと知って欲しい。」とこれからの課題もいただいた。課題解決能力よりも、まず課題設定能力を求められるのが、学問の世界であり、実社会であると再確認させられました。

- ・クラス討議係の人がとてもスムーズに話をすすめてくれて、意見を上手にまとめて発表してくれたので、とても頼れる存在だと思った。
- ・クラス討議の時、気づいたことがあった。「仲間と夢の関連」これだ。夢を叶えるには仲間が必要だったのだ。それから僕は仲間作りに励んだ。
- ・私の反省すべき点は、自分の意見を明確に提示できなかったことです。しかし、それぞれが自分の言葉でお互いに伝え合おうとする雰囲気はとても和やかで、じっくりと話し合いを深めることができたのは良い経験となりました。
- ・学年で発表を聞いた時、3年間共に過ごす仲間たちと頑張っていこうと決意することができました。
- ・クラス討議係の私は、少しでも深い話し合いにしようと、問いを投げかけたりして、一生懸命に務めたが、正直ちゃんとできているのか不安でした。しかし、終わった後「クラス討議楽しかった。ありがとう。」という友達からの言葉を聞いて、なんともいえない達成感と幸福感でいっぱいになった。
- ・私は、今まで仲間とは助け合ったり、協力したりし合う集団だと思っていた。しかし、クラス討議で他の人の意見を聞いていくうちに、仲間とは協力したり、助け合うのはもちろん、共に成長していける集団だということを知った。

次号へ続く